

## 市政トピックス

### 新本庁舎建設 ニュースNo. 4



### 基礎部分のコンクリート打ちがほぼ終了しました

5つの工区に分けて行われた基礎工事は、基礎部分（地下約7メートルの深さから高さ約2.6メートル）のコンクリート打ちがほぼ終了しました。この部分の多くは、完成後、土で埋められて見えなくなる部分です。

建物を支える根幹部分である基礎は、全体で約5,000平方メートルと広く、強度が強いコンクリートを使っているため、通常に比べ手間が掛かる作業でした。7月からの猛暑日と重なり、現場で働く皆さんは、汗だくになりながら仕事を進めました。8月中旬からは、地下駐車場の床部分の工事が始まっています。



コンクリート打ちの状況（7月30日）

### 施工会社が仮囲いに花壇を設置

工事現場の仮囲いの外側の市道沿いには、施工会社が建設現場周辺環境向上の一環として、春から手入れをしてきた花がきれいに咲いています。



（7月26日撮影）

### 岡本庁舎内庁舎建設推進課

TEL 71・2000（代） FAX 71・5000

## 三郷地域の水道水が濁り対策本部を設置

### 近隣市の応援も含め給水車 11 台で対応

7月10日、市内三郷地域の広い範囲で水道水が濁る、という市民の皆さんからの苦情が寄せられたことから、市では三郷総合支所に対策本部を設置し、24時間態勢で緊急対応しました。15日までにはほぼ水の濁りは解消しましたが、その間、最大で給水車11台（うち松本市2台、大町市2台、塩尻市1台の応援による）を出勤させ、給水所を8カ所設置するとともに、ペットボトル3,730本、給水袋5,200袋の飲料水を配布しました。また、市のホームページや三郷地域の皆さんへは防災行政無線や広報車で状況をお知らせしたほか、24日付でチラシを各戸配布しました。検査機関（長野県薬剤師検査センター）で分析の結果、取水している黒沢川の原水に含まれるマンガンの影響により、濁りが発生したものと見られています。

### ●今後の対応

市では管内カメラによる水道本管内部の調査や浄水場の「ろ過材」の検討、配水タンク内の清掃を行う予定のほか、既に着手している「水源転換工事」の工程を前倒しし、事態の解消に努めます。復旧までに日数を要し、大勢の市民の皆さまに大変なご迷惑とご不便をお掛けし、心よりおわび申し上げます。

岡豊科総合支所内上水道課（TEL 72・3111（代） FAX 72・3176）



給水車による給水の様子（7月10日、三郷総合支所）

## ■安曇野を担う人材の育成に向け 中学校で新たな取り組みが始まる

市教育委員会では、将来の安曇野市を担う人材を育成するため、本年度中学生を対象にした新しい取り組みを始めました。

### 英語課外授業

この取り組みは、国際社会に対応できる人材を育成するため、市内全中学校で希望者を対象に、放課後、英語の授業を行います。穂高東中学校では7月3日、生徒12人が第1回授業に



課外授業英会話（7月3日、穂高東中）

参加。授業はすべて英語で行われ、生徒たちは、講師と英語でコミュニケーションを取ろうと

### 立志塾

この取り組みは、企業をはじめ各分野で活躍する人の講話などを通じ、子どもたちが主体的に将来や進路を考え、将来、各分野の第一線で活躍する人材の育成を目指して行われます。このうち豊科南中学校では7月8



立志塾（7月8日、豊科南中）

日、2年生117人を対象に、県立こども病院の中村友彦副院長が講演。医師となったきっかけや、人との接し方で大切にしていることを生徒に語りました。今後、各学校でも順次「立志塾」が行われます。

## ■異業種連携による新たな産業モデル構築に向け 推進会議開催

市が目指す田園産業都市の実現に向け、新たな産業振興策について提案を行う「市産業振興連携推進会議」の第1回会議を7月17日、穂高総合支所で開催しました。当日は、JAや商工会、養鱈業などから選出された委員20人に宮澤市長から委嘱書が手渡され、会長に齊藤正昭・

市商工会会長が選ばれました。同会議では、市の地域資源を活用するとともに、市内の産業が互いに連携することで「安曇野」の知名度を生かした付加価値の高い、新しい商品開発や販路の拡大、新たなサービスの形成などを検討します。今後、市内食品加工事業者の把握調査な

どを経て、本年11月末をめどに市長へ提案します。市では新たな産業モデル「安曇野モデル」構築に向け、推進体制や具体的な施策に提案を反映します。あいさつで宮澤市長は「地域の異業種間の力を合わせ、安曇野ブランド構築のアイデアをいただきたい」と期待を寄せました。



異業種連携や行政支援について意見を述べる委員